

伊東市教育委員会定例会会議録

1 日 時 令和5年12月21日（木曜日）

午後2時30分～午後4時40分

2 場 所 伊東市役所高層棟5階中会議室

3 出席者 教育長 高橋 雄幸 委 員 村上 恵宏

委 員 沼田 芳美 委 員 遠山 泰範

委 員 辻 恵

4 参 与 教育部長 浜野 義則 次長兼教育総務課長 杉山 宏生

教育指導課長 関野 耕一 幼児教育課長 鈴木 慎一

生涯学習課長 山下 匡弘

5 事務局 教育総務課課長補佐 二宮 悠 主事 松岡 翔太

6 会議の経過

高橋教育長：ただ今から伊東市教育委員会12月定例会を開会する。議事に先立ち事務局から報告を行う。

（事務局から出欠報告及び資料確認）

事務局：本日は傍聴希望者が1人ありますので、傍聴を許可するか教育長に伺う。

高橋教育長：本日の定例会に1人の方から傍聴の申し出がありますので、これを許可する。

高橋教育長：それでは議事に入る。始めに、令和5年7月から令和5年8月までの定例会会議録の確認を行う。修正点等はあるか。

（意見なし）

高橋教育長：会議録を原案どおり承認してよろしいか。

（異議なし）

高橋教育長：承認が得られたので、令和5年7月から令和5年8月までの定例会会議録は原案どおり決定する。会議録の署名は遠山委員にお願いする。次に、教育長報告を行う。12月定例会教育長報告事項について、主な内容のみ説明を行う。

- 11月22日 静東地区教育長会、市懲戒審査委員会
- 24日 校長会、伊東市校長会要望
- 25日 伊東マンドリンクラブチャリティコンサート
- 26日 第27回MOA美術館伊東市児童作品展表彰式
- 27日 静岡県市町対抗駅伝競走大会伊東市結団式、
市長記者会見（同席）、市善行賞審査委員会
- 28日 タウンミーティング（荻）
- 29日 伊東子どもお能教室開校式（東海館）
- 30日 スマイル発表会
- 12月 1日 市議会本会議（一般質問）、静岡県市町駅伝競走大会出発式
- 2日 第24回静岡県市町対抗駅伝競走大会
- 4日 市議会本会議（一般質問）、市職員団体交渉
- 5日 市議会本会議（一般質問）、教育機関職員試験委員会
- 6日 市議会本会議（議案審議）
- 7日 市議会委員会（福祉文教委員会）、
令和6年度枠配分予算内示、
タウンミーティング（保育園父母の会）
- 8日 ミニバスケットボールクラブ「クラージュ」市長表敬訪問
- 11日 令和6年度予算編成市長ヒアリング
- 12日 市町対抗駅伝競走大会市長報告会

13日 令和6年度予算編成市長ヒアリング、富士山カレンダー寄贈

15日 市議会最終日

16日 教育機関職員試験委員会（2次募集2次試験）

19日 委嘱状交付式（固定資産評価審査委員・教育委員）、
未来ビジョン会議

20日 文化財センター訪問、富国生命役員来庁（宇佐美石丁場関係）

21日 教育委員会定例会、市長と教育委員の懇談

以上で報告を終わるが、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：それでは、各委員からの報告をお願いします。

委員：11月30日、4年ぶりにスマイル発表会へ参加させていただいた。とても楽しく拝見した。インフルエンザによる学級閉鎖でリモート参加の学校があり、残念だった。全体的に落ち着いていて、そばについて手を添えられているような子はいなかったと思う。先生方の指導のおかげだと思っている。セリフもしっかりと覚えて、自分の分担を楽しんでいる様子が感じられた。今年はさくら園の参加がなく、理由があったかと思うが、残念だった。発表前に各学校から課題が発表されていて、しっかり取り組んできたことがよく分かった。最後に、中西校長から各学校に賞状が渡されたが、初めてのことで、とても励みになり、子どもたちが嬉しそうだった。賞状をもらうことで、満足感が高まったのではないかな。対島中の3年生が終わりの言葉の中で「3年間なくて、4年ぶりだったので楽しみにしていた。」という言葉が聞けて、子どもたちにとって大きな経験だったと思う。これからもずっと続けてほしい。

委員：私も一緒に参加させていただいた。コロナ禍で出来なかったもので、久しぶりに楽しみにしていた。内容については、今、お話されたとおり、子どもた

ちが自分たちで一生懸命考えて、そして、先生たちがそれをきちんと支援している様子が見られた。

委員：対島中の表現の演技が素晴らしく、狂言の言い回しなど、本当に能を見ているのかと思った。対島中の生徒を見たときに、舞台を見ていたほかの小学生の子たちが、ああいうお兄さんみたいになりたい、と思って、それを励みに頑張ってくれたらいいなと思った。素晴らしい発表会でした。

高橋教育長：対島中の特別支援学級の子どもたちが、ピアノ演奏を崔如琢美術館で行い、聞かせてもらった。本当に素晴らしいピアノ演奏をしていた。対島中学校では、特別支援学級の子どもへの指導に力を入れていると感じた。特別支援学級の子どもたちがいろいろなところで活躍するということは、伊東にとっていいことだと思う。活躍の場を提供していくということは今後必要だと思う。

委員：12月6日に伊東小学校の開校祝いの運動会に、校長先生から声を掛けていただき、見させていただいた。保護者の方や教員も参加していて、6年生がリーダーシップをとって進めていたというところが良かった。春の運動会では出来なかった玉入れや綱引きを行えて、保護者からも喜びの声が上がっていたようだった。保護者の入るリレーもあり、和やかさとまとまりができてきたかなと思いました。

高橋教育長：次に議題に入る。始めに、報告事項、教報第11号「令和5年度冬季休業期間中における児童生徒の指導上の留意事項について」を議題とする。

（関野教育指導課長から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：先ほど市長との懇談の中でも触れたが、通学路で人通りの少ないところ、かつ、暗いところが多くあるという話を保護者から聞いている。昨今は生徒数

も少なく、不審者の情報が出たりすると、帰り道が暗くて怖かったという話を聞く。市長にも、いろいろなことがあって大変だと思うが、人がいるから明るくするのではなくて、逆に人がいないところこそ、明るくするような防犯をしていただければありがたい、そういう場所を見て頂きたいとお伝えした。こういう機会に、例えば学校でも、生徒たちに心配なところがあったら教えてほしい、保護者にも窓口を明確にして伝えるような周知をしていただけると、少しでもそういった場所が減るのではないかと思う。今回、間に合わなければ次回以降でも、子どもたちは通るが、人通りが少なくて暗いところをチェックしていけるような体制がとれたら安心だと思う。

関野教育指導課長：今、委員がおっしゃられたとおり、通学路点検を夏に実施し、交通安全リーダーを語る会で登下校時の通学路について点検をしているが、今の時期、夕方4時半で暗くなる冬期を想定した場所の吸い上げも大切かと思う。ぜひ、前向きに検討させていただければと思う。

高橋教育長：非常に重要なことだと思う。学校には伝えて、そのような場所があれば、申し出るよう取り組んでいけたらと思う。

委員：回答は今でなくて良いが、各学校で子どもたちが、どの程度、どこの家がパンダの家か把握しているか。せっかく地域にパンダの家があり、看板や旗が出ていれば分かると思うが、子どもたちがあそこの家はパンダの家だ、とどの程度分かっているのかと思う。令和6年度に向けて、年度当初、学校から発信して、子どもたちが把握できればいいかと思う。休業中も、万が一有事の際にパンダの家へ声をかけられる体制が出来たらいい。

関野教育指導課長：今、ご指摘いただいたことで、昔は大きな地図にシールを貼ってやっていたが、パンダの家も変わるので、段々とやらなくなった学校がある。生涯学習課の事業でもあるので、そちらと連携して、年度当初にA3判

の地図を配布するとか、学校に貼った大きな地図を更新するとか、これは今後検討させていただきたい。

委員：いろいろな問題行動がたくさん上がってきて、こんなにすごい種類があるようになったのかと、時代はすごいなと思った。先日も、広報いとうで行方不明の子が出たとあったが、この中で目立つ問題行動はあるのか。前にある学校で万引きが多いという話も聞いたが、何か目につくものがあれば、教えていただきたい。

関野教育指導課長：多種多様で、特にこれというものはない。いつも生徒指導報告をしている内容が主になるが、全体的な傾向として、俗に言うヤンキーとか不良、無免許でバイクを乗り回すなどの事案は少なくなっている。全体的に学校が荒れることは下火になっている。逆に増えているのが、SNSなどにまつわるトラブルである。あと昔見られなかった事案としては、オーバードーズ、過量服薬や自傷行為など、内にこもるような傾向の問題行動が多くなっている。

高橋教育長：伊東市だけの特徴ではないが、全国的にSNSを使った問題が発生している。問題が表面に出てきていないところがあるのではないかと心配している。校長会でも、教育計画の中に必ず使い方や危険性について、計画的に、発達段階に応じて入れるよう伝えている。来年度も、いろいろなところで、そういった教育がされるかと思うが、それはそれとして、やはり家庭でも見ていけないといけない問題だと思っている。社会教育との関連も含めながら、子どもたちが大きな犯罪に巻き込まれないようにしていきたい。教育委員のみなさんにも、いろいろなご意見、情報が入ってくるかと思うので、そのようなことがありましたら、ぜひ教えていただけたらと思う。

高橋教育長：次に教報第12号「令和5年度冬季休業期間中における教職員の服務及び学校施設等の管理について」を議題とする。

(関野教育指導課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

(意見・質問なし)

高橋教育長：次に教報第13号「令和5年度冬季休業期間中における教職員の
服務及び幼稚園施設等の管理について」を議題とする。

(鈴木幼児教育課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：小中学校の方にも幼稚園の方にも、「教職員個々のワークライフバランスを大切に」や、「年次有給休暇の趣旨を生かし」など、教職員の服務について挙がっているが、お正月の短い期間、先生方もゆっくり休んでいただきたいと思っている。

高橋教育長：今、休園中の幼稚園については、警備が入っているということではよろしいか。

鈴木幼児教育課長：現在、休園中の幼稚園には、機械警備を入れている。退出時にセットされ、どこかの窓が開いたときには異常が出るようになっている。また、休園している園の中でも、富戸幼稚園は学童として利用しており、湯川分園は子育て支援課が子育てサロンとして使用している。基本的には、機械警備を使用しており、何か異常があれば、課内の優先順位に沿って、施設担当、担当補佐、私の順に連絡が来るようになっている。

高橋教育長：今、課長が話したとおり警備が入っているので、また地域で気をつけて見ていただいて、何かあれば教えていただきたい。

高橋教育長：次に教報第14号「令和6年度教職員人事異動の重点について」を議題とする。

(関野教育指導課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：今、教員の男女比はどのようになっているのか。

関野教育指導課長：小学校は大体同じ程度だが、中学校は男性が多い。ただ、管理職等を含めると、小学校管理職に男性が多いので、管理職以外の教員で見ると女性の割合が若干高くなる。中学校はどちらも圧倒的に男性が多い状況にある。

高橋教育長：これから人事の報告が多くなってくる。教員不足が話題となっているが、今年の伊東市は全学校で教員の配置はできている。県内の小中学校では、令和５年度、８４名の教員が足りていない状況にある。予算はあるが、人がいないという状況が１０月現在でも起こっている。伊東市では指導課長が頑張ってくれて、不足という事態になってはいないが、今後も教員不足の問題は続くと思う。来年度も不足がない様に取り組んでいきたい。人を探しても、なり手がいない状況が出てくるかもしれない。

委員：定年退職年齢を段階的に引き上げる話は、どういった状況になっているのか。

関野教育指導課長：定年退職年齢の引き上げに伴い、今年度の定年退職となる者は基本的にいない。今年６０歳を迎える方は６１歳が定年になり、来年初めて６１歳定年の方が生まれ、その後１年ずつ６５歳まで定年が延長される。ただし、役職定年制といって、管理職の方は、基本的に６０歳で役職を離れるということになり、給与も伸びるのではなく、７割程度の給与になる。すると定年まで働かれる方も少ないかもしれない。

高橋教育長：次に教報第１５号「伊東市学校給食センター給食用物資調達取扱要綱の一部を改正する告示について」を議題とする。

（**杉山次長兼教育総務課長**から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：以上で報告事項を終了する。次に、その他「市議会 12 月定例会（一般質問・補正予算）の報告について」を議題とする。

（**浜野教育部長**から資料に沿って説明）

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：次に、その他「各課報告について」を議題とする。

杉山次長兼教育総務課長：令和 5 年度学校施設工事について報告する。

（**杉山次長兼教育総務課長**から資料に沿って説明）

関野教育指導課長：生徒指導について報告する。まず、問題行動については、小学校が前月から減少、中学校が前月から増加となっている。内容として、小学校で暴力をふるってしまうケース等が見受けられる。学校で実施しているソーシャルスキルやアンガーマネジメントの取り組みについて、掲示板等を利用して浸透させていきたい。ソーシャルスキルとは、例えば、鉛筆が一本転がっていて、あなたはどうしますかというところから始まる。普通はそれを拾うという回答になるが、子どもによっては、それを蹴飛ばすという子もいる。そういったところからトレーニングしていくようなものになる。アンガーマネジメントは怒りを鎮めるための訓練という内容である。中学校では、不健全非行が一番多く報告されている。空気を読まない一言、周りをいら立たせる一言が原因となって、いろいろな問題行動に繋がっているケースがある。道徳の授業や学習会等を通じて、自分の発言に責任を持つという指導をしている。今後、冬季休業に入ると、生活のリズムが変わることが予想されるので、学校には、休み前の把握と、休み後の把握を徹底するように伝えている。続いて、いじめに

ついて、小中学校共に3か月以上指導して、報告が変わらないケースがある。

3か月以上指導継続していて、特に問題がないケースは、再確認し、いじめ解消とするよう、また、解消されていない場合は、現状を押さえて、最新の状況を把握した上で対応するよう指導している。最後に不登校について、小中ともに、2学期に入ってから、急にお休みする児童生徒が増えている。原因究明は簡単ではないが、少しでも子どもに寄り添って、対応できるようにと話をしている。

鈴木幼児教育課長：2点報告する。1点目は、放課後児童クラブの民間委託プロポーザルについて報告する。放課後児童クラブは、令和5年度から民間委託を進めており、伊東小学校、大池小学校の放課後児童クラブ民間委託化に引き続き、令和6年度は、富戸小学校と南小学校の放課後児童クラブ事業者を民間委託していく計画である。このうち、富戸小学校については、既にNPO法人絆翔に委託しているが、このタイミングで一般公募という形でプロポーザルを実施する。この学童保育は、歴史的に父母の会が運営しており、歴代、保護者がいわゆる経営者となって、人を雇い、経営をしてきた。保護者の子どもが卒業すると次の代に変わってきた。昔はその制度でもよかったかもしれないが、現在はこの学童保育も国の制度、補助金の中で運営されることから、父母の会でそういったことを考えながら経営する形が限界を迎えている。そういったことから、運営の委託化を進めている現状にある。南小学校では、現在も父母の会が運営しているが、その総会でもほぼ100%の議決をいただき、民間委託を進めている。12月1日にプロポーザル実施要領を公表し、この後、参加される事業者から意思表示を出された後、1月中旬にプレゼンテーション等を実施する。プロポーザルでは金額だけではなく、学校との連携や保育の工夫など、様々な提案を勘案し、1月中には業者を選考したい。続いて2点目として、幼

稚園で導入している I C T 技術について説明する。私が課長補佐として幼児教育課に来た令和 3 年度当時は、幼稚園には電話回線が 1 本、インターネットに繋がっているパソコンが 1 台、あとはネットに繋がっていないパソコンで記録を書いている状況だった。令和 4 年度から国の補助金を利用し、i P a d を 7 園に配布し、担任の先生は必ず 1 台持っている状況にある。そして、「C o D MON」というシステムを導入し、全園で活用している。

(鈴木幼児教育課長から資料を用いて説明)

こういった機能をもっと活用して、先生方の負担が軽減できるようになればと考えている。

山下生涯学習課長：第 2 4 回静岡県市町対抗駅伝、令和 6 年伊東市二十歳式及び第 5 8 回伊東オレンジビーチマラソンについて報告する。

(山下生涯学習課長から資料に沿って説明)

高橋教育長：ただいまの説明について、意見・質問はあるか。

委員：教育指導課長から話のあった、2 学期から不登校児童生徒が増えているという話は聞いたことがあり、詳しい話を聞いてもあまり原因がわからない。何か理由はあるのだろうか。また、そういった家庭に対してどういったケアがされているのか。怖いのは、学校だけの問題ではなくて、虐待など家庭の問題も原因の一つにあるのではないか。その辺の不登校理由については把握できていたりするのか。

関野教育指導課長：報告を見ていると、本当に様々な理由になっている。パターンとして、去年はずっと休んでいて、4 月から頑張り、7 月までは欠席が少なかったが、夏季休業を終えると、生活リズムが変わってしまい、来なくなってしまうパターンがある。また、人間関係、友人や教師との関係で、合わない部分が徐々に増えてきて、休んでしまうパターン。家庭内での両親の不和が原

因のケース。まったく理由の見当がつかないケースもある。対応については、そのケース毎に何かしらの対応を取っている。家庭によってはこまめに連絡を取りつつ、今年も11月になるので、さすがに毎日連絡すると、家庭も疲れてしまう。週に1回、2週に1回など、間隔をあけているケースもある。保護者に電話をかけても返信がないケースもあり、長期間、子どもの顔を見られていない、安否確認ができていない状況は避けるように、子育て支援課や外部機関とも連携して、対応しているケースもある。

委員：今の不登校について、前に教育長の議会答弁で、小中学校内に支援センターを設置する案があったかと思う。今、適応指導教室も手一杯で、教室も狭くなっていると聞いているので、その対応はとてもいいなと思い、市長室でその話を取り上げた。子どもたちもそうだが、親も悩んでいるので、親の話も聞いてあげられる対応が出来ればいいと思う。

関野教育指導課長：今、委員ご指摘のあった支援センターは、校内支援センターといって、いわゆる保健室登校、別室登校に対して、別室という言葉ではなく、校内支援センターとして、多様な学びができるようにしている。教育長答弁については、まだ予算化されていないが、そこに支援員をつけることを想定している。今は自習や授業のない教員ができる範囲で支援をしている状況のため、そこに免許を持っている支援員が指導や援助ができるようにと考えている。委員が言われた保護者の相談については、まだ対応が厳しい現状である。ただ、家庭児童相談室や教育相談室もあるので、保護者についてはそちらでの対応も考えられる。あとはスクールカウンセラーも保護者と相談することは可能であるので、そちらを紹介しつつ、多面的な支援ができないか検討している。

委員：知り合いの保護者がどこに相談をしたら良いか悩んでいた。このままでは親が潰れてしまうと思ったので、そういったところで相談が受けられれば良

いと思った。

高橋教育長：支援センターは保護者とも連携しますので、いろいろなことで相談していただければと思う。

委員：先ほど、幼児教育課から見せていただいたタブレットは、先生方がいつも持ち歩いていて大変や邪魔になるという意見は上がっていないか。

鈴木幼児教育課長：クラスにいるときは置いていて、園庭などで遊ぶ際にぶら下げていくといった形で、重くなく、皆さん記録を残している。保育ドキュメンテーションという考え方で、今まで文字で書いていた日々の記録を、写真で残していくというイメージになる。教育の一環、教材という考え方からいくと、邪魔かもしれないが、大事なツールになっていくと思う。写真を撮るときは、担任と補助員で連携をして写真を撮っている。

委員：そういった補助をしてくれる人がいるといいが、やはり担任が子どものこの場面がいいなと思ったときに、カメラを向けられない、手が外せないということもあると思う。フリーの人、補助をしてくれる人が必要だと思う。

委員：スクールカウンセラーの件で、私も一度、子どもとうまく関わっていないなと思ったとき、学校に頼んで、スクールカウンセラーと保護者に話をする時間をいただいて、すごく良かった。これ、もっと気軽にという言い方が正しいか分からないが、皆さんに周知して、問題の大きさもいろいろあると思うが、自分でない視点、プロからの新しい視点は、すごく大きな安心感になると思う。そういった機会は、もっと使いやすく、周知されてほしい。受け入れ側も大変だと思うが、保護者側にもっと浸透すると、一人で抱え込まず、前向きに考えていけると思う。

委員：しっかりされている方は、自分から積極的に相談に行かれるが、背中を押してあげないといけない方もいる。学校へ足を向けることは、すごく勇気が

いる方もいるので、楽な気持ちで活用できる場所が良いと思う。

関野教育指導課長：今、委員お二人がおっしゃられた内容は、非常によく分かる。学校は簡単に周知していても、やはり敷居を高く感じるのが保護者の心理だと思う。周知方法を考えていきたい。また、学校は、問題が起きた際には、比較的話を聞きに行くが、普段抱えている悩み、モヤモヤについては、なかなか声を掛けにくい状況にある。より良い周知方法を考えて、気軽に学校へ来ていただける方法を模索できたらと思う。

高橋教育長：その他全般的に、何か意見・質問はあるか。

（意見・質問なし）

高橋教育長：今後の日程について確認する。

事務局：1月の定例会については、1月25日（木曜日）午後2時30分を予定している。2月の定例会については、2月27日（火曜日）を予定とする。

高橋教育長：以上で伊東市教育委員会12月定例会を終了する。

以上のとおり会議の次第を記録し、ここに署名する。

教育長 高橋 雄幸

委 員 遠山 泰範

書 記 藤原 真紀